

●「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」チラシ木津川市小学校で配布実現

昨年のチラシ配布の依頼は宇治市や城陽市、八幡市、京田辺市、その他全町村教育委員会は快く配布依頼を引き受けていただきましたが木津川市教育委員会は強く今年だけの配布ですよと念をおされてしまいました。その時、その場で「これまでこの取り組みで最も多くの参加があり大変喜ばれているのが木津川市の子供たちなのですよ」と説明しておきました。配布できない理由は「配布物が多くて先生の負担が多いので」ということでした。今年（2020年）も夏休みの季節が近づいてきましたので木津川市の子どもたちを除外するわけにいかないと思い、議会事務局長さんをお訊ねしてご援助をいただけるようお願いに行きました。里山の会の活動も河川レンジャーの活動もよく理解されていて私達の思いを汲んでいただき、河川課長さんにもお願いしました。事務所に帰ると間もなく事務局長の金村さんから配布の了解が得られましたと電話をいただきました。今年最大の難問が解決できました。

●イタセンパラのパンフレット最終校正小川力也先生快く了解いただく 完成に期待膨らむ

先週号でパンフの原稿が出来上がったとお知らせしました。引き続き福井波恵さんに加筆修正をお願いし、それが出来上がり、引き続き小川力也先生に最終校正をお願いしたところ大変ご多忙の中、快く引き受けていただく事になりました。これで内容面では自信をもって運動の理解者を募ることができることになります。残るは印刷面や経費への対応だけとなりました。しかし、事務方として気になる部分がありますので 少し時間が必要と思います。今しばらくお待ちいただければ印刷に入れると思います。

●京都府交響プロジェクト交付金申請書提出 27 日

昨年度は6項目の事業で申請を行いました、この交響プロジェクト交付金は京都府と京都市町村振興協会から3分の2の交付金があり、残りの3分の1を自己負担となる制度であり、自己負担金は参加費などで賄うなど工夫が必要になります。全額交付金で執行はできないので、少し実力が必要です。私たち里山の会はこの制度は自己資金が三倍に使えるものとして大いに歓迎して様々な取り組みを展開してきました。これまでに制作した木津川の植物や京都府植物誌目録ノートなどを発行できました。とても自分たちの予算では発行できない資料をまとめることができました。今年度も結成 25 年記念事業として木津川の植物写真集発行を組み込みました。これは木津川に生育している植物 917 種の内、撮影できた花などを集約したもので、この間約 10 年間に堤防強化工事が実行された後に確認された植物を集約した作品なのです。今後木津川の研究者の活動に役立つ資料となるものです。是非成功させたいと思っています。ご協力いただいた多くの皆さんの汗の結晶による成果物になるものです。

●週刊ニュースで事前予告に直ちに問い合わせあり 驚くべき早い反応に 期待の大きさ実感する。

週刊ニュース 830 号前後で今年予定している「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」の近況をお伝えしたところ間髪を置かず問い合わせが寄せられてきました。河川レンジャーとやましろ里山の会による共済事業にこんなに早く反応があるとは思っていませんでした。特にコロナウイルスの感染予防措置が特に重視されるので 規模を縮小して実行となります、例年とは違った取り組みになりますので、参加者の皆さんにはこれまで以上のご協力をお願いすることになります。ご協力をお願い致します。

●7 月 3 日ヤマトサンショウウオの調査実施 二つの池それぞれで成体 1 匹を確認、また巨大なアメリカザリガニも確認しました。これまでの経験からすると、ヤマトサンショウウオの成体の姿を確認できる最終のチャンスだったかもしれません。まもなく陸上生活に移行する直前だったと予想しています。太田さん金田さん連日里山の会の活動でご活躍本当にご苦労様です。

●2 日オオムラサキ捕虫網の撤去作業中にタヌキが出現 2 度も確認する

数年前に同じ観察会の頃、午後 2 時頃かなり大きな動物を確認しました、桜谷先生によるとそれはタヌキだという同定でした。その時の姿が体の後半部分の毛がなく即座に判断できなかったことを思い出しました。人づてにお聞きしますと、人家に近づく動物は人間社会の食物、特に甘い物を食しているのが糖尿病になっていると説明されました。今回確認された生き物は風体が前回と同じようだったそうです。

●動力式農機具の安全講習会 7 月 14 日（火）14 時

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

●7 月植物観察会 7 月 11 日（土）9 時半 京田辺市玉水橋下流 船の公園（天候により中止の場合あり）

詳しくはホームページ トップページをご覧ください。

●ジャガイモの保存方法についての一つの意見

山村さんが、ジャガイモの保存方法について一文を書け、ということなので、釈迦に説法だとは思いますが、意見を述べたいと思います。

ジャガイモの収穫が終わった頃だと思います。ジャガイモは太陽に当たるとソラニンという有毒物質を生じ、緑色になってしまい、それを食べると中毒を起こしてしまうことはご存じだと思います。そこでジャガイモを光に当てないように保存するというわけです。

しかし、光に当てなければ良いというわけで、光を通さない厚手のビニール袋に入れたり、空気を通さないビニールなどで包んでしまうとジャガイモは呼吸ができなくなり早く傷んでしまいます。そこで、風通しのいい冷暗所に保存するということになります。

我が家は残念ながらどこにもそんな保存スペースはないので、プラスチックの収穫籠に入れたままで冬の厚手の古いカーテンでくるんで、雨、光を当てないようにしています。少なくなってくると、紙の米袋に入れて保存します。私は初夏に収穫したジャガイモの食べ残しを夏の終わりに植えて、初冬に収穫し、年に二回、ジャガイモを作っています。秋作は初夏のものほど大きくはなりませんが、食べるには十分の大きさにはなります。ジャガイモを昔は「二度芋」と呼んだそうです。初冬に収穫した米袋に保存したジャガイモは、そのまた食べ残しを春先に植えますが（だんだんできは悪くなります）、植え付けるまで腐らずに残っています。ポイントはやはり、呼吸を確保して、暗い場所で保存するということになります。新聞紙でくるむのも一つの方法です。ちなみに、新じゃがを皮をつけたままラップで包んでチンして、バターで食べると、とてもおいしいですが、実は緑化していない皮にも有毒物質が少量含まれているので、皮は食べない方がよいとのこと。別に、皮ばかり大量に食べるわけではないので気にする必要はないと思いますが、そうかどうかです。野菜の皮は、身を病気や害虫、外気から守るためにあるので、ジャガイモは自らを守るために毒の成分を含んでいるということではないでしょうか。（終わり）

●中聖牛設置はどの取組の狙いについて竹門先生からいただいた説明文を掲載しています。ご理解いただき、ご協力をお願い致します

●15《FS 研究の研究計画》

上記の目標を達成するために、竹蛇籠と聖牛が設置されている木津川の15～16KP付近の地点で、出水前と出水後に現地調査を行う。測量結果や UAV

による航空写真などを用いて河床地形、流速・流方、河床材料、植生被度などの物理環境の変化を調べる。また、D フレームネットや投網を用いた水生生物採集に、生息する種の構成、タクサ数、多様性等の生物環境の変化を調べる。特に UAV を用いた地形変化の観測は、一定規模の出水が発生するたびにを行う予定である。そうした調査結果を基に、伝統的河川工法に与える影響を明らかにする。

さらに、聖牛や竹蛇籠といった構造物形状変化も調査する。また、聖牛を設置した場合と設置しなかった場合で、二次元河床変動計算を行い、シュミレーション結果からもその効果を検証する。それらの情報から、生息場構造の最適化を目的として行われた伝統的河川工法の試験施工が河川生態系にとって果たした役割の評価を行う。そして、今回の利用方法を他の地点でも実施する際に必要な諸条件を明らかにする。

16《研究1年目の目標の概要》

木津川下流の他の地点への応用を検討する。FS 研究で得られた知見を基に、以前から河岸浸食が問題化している 20Kp 付近での対策工事の際に、伝統的河川工法の利用が可能かどうかを判断することを目標とする。FS 研究で得られた研究成果に基づいて、治水上のみならず環境上も効果を期待できる設置方法を仮設的に予測することを目標とする。また、河床低下によって単一流路なってしまった河道に伝統的河川工法を適用することによって、砂洲上に側流路を復活し、これを形成・維持させるために役割についても事前評価することを目標とする。さらに 15-6Kp の試験施工現場のモニタリングも行い、2年後及び4年後の変化を追跡することも目標とする。